



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 57

May 2015

今号のトピックス

2015 年度野外研修会は「隠岐諸島の植物」です。
 10 月 9 ～ 11 日に開催されます。
 申込期限は 8 月 31 日、申し込み順となります。
 → 12 ページ

目 次

諸報告

日本植物分類学会第 14 回大会報告	2
2015 年度大会発表賞の報告	4
2015 年度大会発表賞受賞者喜びの声&研究のアピール	5
2015 年度第 1 回評議員会議事抄録	6
2015 年度総会議事抄録	8
2015 年度事業計画および予算	9

お知らせ

2015 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ	12
日本植物分類学会第 15 回大会のお知らせ	13
バックナンバー 9 割引販売の期間延長について	13
公的機関へのバックナンバー寄贈について	13
新着交換図書紹介 (2015 年 2 月～ 2015 年 4 月 10 日)	14

植物研究会・同好会紹介

「ラン懇話会」	14
---------------	----

会員消息	15
------------	----

諸報告

日本植物分類学会第 14 回大会報告

第 14 回大会会長 黒沢 高秀

第 14 回大会準備委員長 兼子 伸吾

日本植物分類学会第 14 回大会が 2015 年 3 月 5 日(木)から 8 日(日)に福島大学(福島市)で開催されました。参加者総数は 256 人(一般 170 人 [うち当日 41 人], 学生 86 人 [うち当日 16 人])で、口頭発表 58 件(ランチョンセミナー 3 件を含む, うち大会発表賞エントリー 27 件)(写真 1), 受賞記念講演 4 件, ポスター発表 68 件(うち大会発表賞エントリー 30 件)(写真 2), 合計 130 件の研究発表が行われました。3 月 7 日の夜に開かれた懇親会の参加者は 172 人(一般 114 人, 学生 58 人)でした。確認できる範囲では、参加者総数, 学生参加者数, 研究発表総数, 口頭発表数でこれまでで最大の大会となりました。最終日の午後に開催された、標本室や標本に関する一般公開シンポジウムでは、1 題の講演が中止となりましたが、本来趣旨説明であったものを含む 4 題の講演がなされました。オプションとして行われた翌 9 日(月)の標本室見学会も 21 人の参加がありました。大会会長の病欠などのハプニングがありましたが、多数の皆様にご参加いただき、盛況のうちに無事に大会を終えることができました。ご参加いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。また、本大会は福島大学に後援をいただき、無償で会場を利用させていただきました。本大会の標本展は東北植物研究会との共催で、植物分類学関連学会、研究会、同好会展示コーナーは福島県植物研究会の後援と東北植物研究会の協力をいただきました。本大会は福島大学学術振興基金助成事業および福島県コンベンション開催支援事業として開催しました。福島市観光コンベンション協会から駅の歓迎の看板を提供していただきました。ここにあわせてお礼を述べさせていただきます。

第 14 回大会の収支決算報告概要を以下に示します。外部資金が得られたこと、そのため学会から補助をもらわずに十分な収入を得ることができたこと、シンポジウムの打ち合わせや講演者の大会参加旅費を出すことができたこと(一部演者は辞退)、会場費がかからなかったこと、準備佳境時から開催期間にかけての大会会長不在の穴を埋めることもあってアルバイト等の謝金が例年よりかなり多くなったことが、特徴として挙げられます。

第 14 回大会収支決算報告概要

収入		支出	
参加費(過払い含む)	608,000	要旨集印刷代	161,546
懇親会費	617,000	旅費(打ち合わせ, 講師)	157,469
要旨集	9,000	返金(過払い等)	71,000
弁当代	37,600	会議費・弁当代	96,200
福島県コンベンション助成	500,000	懇親会費	500,036
福島大学学術振興基金	140,000	文具・会場用品・通信費	31,780
		お茶・お茶菓子	130,805
		アルバイト代, ロゴ作成謝金	791,550
繰り越し	149,405	繰り越し	120,619
総計	2,061,005		2,061,005



写真 1. 口頭発表の様子
(撮影 根本秀一, 以下の写真も同様)



写真 2. ポスター発表の様子

新たな試み

本大会はいくつか新たな試みを行いました。一つ目は学生の準備委員会参加です。黒沢高秀，兼子伸吾，山下由美，水澤玲子に大学院博士課程在籍の根本秀一，首藤光太郎を正式な準備委員として加えました。最初は教育的配慮というつもりもあったのですが，根本は大会ホームページと記録を担当し，首藤は標本展を担当し，二人ともあらゆる場面で他の委員と遜色なく準備・運営をこなし，終わってみれば委員として不可欠な働きをしていました。



写真3. 標本展の様子

二つ目以降は，第一回の準備委員会で各委員に「福島大会でやりたいこと」を挙げてもらったもののうち，いくつかを実現したものです。新たな試み二つ目は「標本展」と「植物分類学関連学会，研究会，同好会展示コーナー」です。標本展（写真3）は，東北植物研究会が行っているものをモデルに，首藤の発案で行うことになりました。標本がほとんど集まらないか，あるいは殺到して捌ききれなくなるか不安なところがありましたが，結局適度な数の標本が集まり，28人から送付された135点（海藻6点，地衣類5点含む）を展示しました。展示しなくても良いから標本を寄贈したいという方もいて，集まった標本は総計190点になりました。送っていただいた人にも参加者にもおおむね好評でした。会期中は口頭発表会場から離れていたにもかかわらず，多くの方が足を運んでくださったようです。大会終了後に，希望により北海道大学総合博物館SAPに6点，東京大学総合研究博物館TIに5点，国立科学博物館TNSに5点，東北大学植物園TUSに39点が送られ，残りの136点は福島大学共生システム理工学類生物標本室FKSEに保管されています。植物分類学関連学会，研究会，同好会展示コーナー（写真4）には岩手県植物誌調査会，高知県立牧野植物園，すげの会，東北植物研究会，長野県植物研究会，ヒマラヤ植物研究会，福島県植物研究会，福島県生物同好会，フロラ山形，宮城県植物誌編集委員会の10団体が出展し，展示やオリジナルTシャツの販売などを行いました。

三つ目は思い切って参加費を引き下げたことです。学部生・高校生等は無料にしました。8月のニュースレターでの大会案内の前に，会場費がかからない見込みと，一部外部資金が獲得できる見込みがあったため，踏み切ることができました。学部生・高校生等は36名の参加がありました。

四つ目は地元との関わりを深めるよう努めたことです。地元の研究会と標本展を共催するとともに，一部の企画に後援や協力をいただきました。お昼を食べながら気軽に地元の植物にちなむ講演を聞く，「ランチオンセミナー」を企画しました。植物分類学関連学会，研究会，同好会展示コーナーでは，地元の3団体が出展しました。統計は取っていませんが，学会員ではない地元の研究会・同好会員が，例年より多く参加してくれたように思います。

その他，マイマグ・マイバッグ持参を呼びかけて応じた人に銘菓を差し上げる，利用者はいませんでした。子どもの遊び場「キッズコーナー」を設ける，標本室見学の日（写真5）を設けるなどの試みも行いました。



写真4. 植物分類学関連学会，研究会，同好会展示コーナー



写真5. 標本室見学会の様子

本大会の課題・今後の課題

本大会の研究発表および受賞記念講演は合計 130 件で、確認できる範囲で最大であった、第 11 回大会（大阪学院大学）の 121 件を大幅に上回りました。これは準備委員会の嬉しい誤算でしたが、プログラム編成が大変でした。申込時に口頭発表・ポスター発表の「どちらでも良い」を選択して下さった方（1 名）にはポスター発表をお願いしたほか、準備委員が個人的にお願いして口頭からポスターに回って頂いた方もいらっしゃいました。口頭発表での発表賞エントリー数は第 12 回大会（千葉大学）の 29 件には及ばなかったものの、27 件に達しました。発表数が多いことは一般に学会のアクティビティを高めることにつながるの可喜しいことですが、これまでの大会の準備・運営方法ではいろいろなところに無理が生じてきます。今後、首都圏や近畿圏などでの開催時には、今回を上回る発表申し込みがあることも考えられます。口頭発表からポスター発表へ誘導する仕組みをつくる、日程を延ばす、口頭発表会場を増やすなど、何らかの対策が必要になると考えられます。

福島大学には大きな規模の学会や講演会に適した建物がなく、2 つの建物にある 5 つの一般教室と大会会館の集会室、レストランを会場にしました。そのため、比較的広い範囲に会場が点在することになりました。これらの配置には工夫の余地がありました。植物分類学関連学会、研究会、同好会展示コーナーが他の会場から少し離れていたため、思ったより人の流れを作れず、出展した団体にはご迷惑をおかけしました。今から考えれば、受付を近くにするなどの工夫をすることにより、もう少し見学者を誘導できたのではないかと思います。また、大会本部をキッズコーナーやクロークと一緒にするなど、工夫した部屋割りをすれば、アルバイトもより効率的な配置にできたと思います。地方大学など分散型の会場にせざるを得ないときに、参考にしていただければと思います。

なるべく多くの発表や参加の申込があるよう、申し込み時期も思い切って遅くしました。しかし、発表や参加を多くすることはできたかもしれませんが、ニュースレターの発送に合わせた事前配布版プログラムの作成や、印刷のための要旨集原稿作成は時間的余裕がなくなり、しばらく綱渡りの状況でした。発表申し込みの締め切りを 1 週間ほど早めれば、危うい思いをせず、もう少し余裕を持ってプログラムの作成ができたと思います。

2015 年度大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 永益 英敏

日本植物分類学会第 14 回大会において、優れた研究発表を行った若手研究者に授与される大会発表賞は、次の 3 名に決まりました。

口頭発表賞

木村 宅真（東北大・院・生命）「伊豆諸島におけるアキノキリンソウ属植物の複数回移入と遺伝的分化」

ポスター発表賞（五十音順）

森 脩祐（岐阜大・応用生物）「降雨に適応した開花・開葯の解析」

渡辺 洋一（東京大・院・総合文化）「溪畔適応したツツジ属低木 2 種の進化と異所的分布の成立過程」

今回の大会では大会発表賞の対象となる発表として、口頭発表 27 題、ポスター発表 30 題のエントリーがありました。選考委員会は会長、評議員および前大会での発表賞受賞者からなる計 13 名で組織され、それぞれの委員による採点結果を集計したものに基づき、委員の合議により受賞者を決定しました。

口頭発表、ポスター発表のいずれにおいても、発表の「うまさ」において優れたものが多く、得点の分布はかなりばらつく結果となりました。最終的に絞り込まれた 4 名の口頭発表賞候補者の発表は甲乙つけがたいものでしたが、議論の結果、今回は 1 名のみを受賞者としてしました。ポスター発表では、明確

な目的を設定し、新しい手法で解決を試みた2名の発表が高く評価されました。

2015 年度大会発表賞受賞者喜びの声&研究アピール

ニュースレター担当幹事 堤千絵

今回も受賞者の皆様にフリースペースを提供しまして、喜びの声をお伝えいたします。

口頭発表賞を受賞しました東北大学の木村拓真です。今回このような賞をいただきまして、身に余る光栄です。私は、どのようにして植物は様々な環境に適応できたのかについて興味を持って研究しています。

今回の発表では伊豆諸島に分布するキク科アキノキリンソウ属植物が複数系統に由来し、その上で島嶼固有分類群として遺伝的に分化していることを報告しました。

調査中の思い出としては、車中泊をしていたところに警察官に職務質問され、所持していた植物乾燥サンプルを危険ハーブと間違われたり、伊豆諸島で財布を無くして帰還が危ぶまれたりと、色々ありましたが大変良い経験になりました。

今後は、海洋島に辿り着くまでの過程に注目して研究を進めたいと考えています。また、アキノキリンソウのように多種多様な環境に生育している植物を対象に、環境適応の背景に迫っていく所存です。まだまだ未熟ですが、今回の受賞を一層の励みとし、これからも精進して参りますのでご指導のほど、よろしくお願い致します。



アキノキリンソウ
島嶼型・高山型・溪流沿い型等
多数のエコタイプが存在する

こんにちは。ポスター賞をいただきました岐阜大学の森脩祐です。今回の受賞は、予想外のことで驚いています。僕は植物の花が雨にどのように適応しているのか、というテーマで研究しています。花が雨に打たれることは、送粉という点から考えると植物に負の影響をもたらしているのではないかと考えたからです。今回の発表では、一見すると無防備に雨に打たれている植物種の中には、雨に反応して花粉を出してない種がいること、さらに、開いた葯が、濡れる前に閉じる種がいることを発表させていただきました。

地面に寝転んで、植物を観察していると、僕の知らない現象が次々と見つかります。後から調べてみると、昔の誰かが発見していた現象である場合がほとんどですが、それでも、僕の期待を裏切ってくれる植物の世界は大好きです。

全く計画性のない僕を叱咤激励してくださった川窪先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

閉じる前



閉じた後(15分後)



濡れる前に葯が閉じるハクサンイチゲ

発表賞をいただきました東京大学の渡辺洋一です。私は、植物の進化と多様化という面に着目した研究を行っています。現在の主な材料はツツジ属で、寒帯から熱帯まで幅広い気候帯や土壌に生育する木本属です。異なる環境への進出は植物の多様化を促す重要な過程であり、この過程を解明する研究は、著しい発展を遂げている次世代シークエンス技術を利用して近年急速に進歩しています。今回発表したサツキとキシツツジの進化研究は研究途上のもので、これらの適応進化を明らかにするにはまだまだ実験・解析を行う必要があります。

今回は「溪畔適応」がテーマでしたが、ツツジ属には他にも興味深い生態特性をもつ種が多いため、今後も面白い視点の研究成果を報告できればと考えております。



2015 年度第 1 回評議員会議事抄録

庶務幹事 志賀 隆

会場：福島大学生協レストラングリーン

日時：2015 年 3 月 5 日（木）16 時～19 時

参加者

評議員：（）内は被委任者

出席 [9 名]：池田 博，海老原 淳，岡崎 純子，角川 洋子，梶田 忠，田村 実，永益 英敏，布施 静香，米倉 浩司

欠席 [1 名]：黒沢 高秀

委任状出席 [2 名]：坪田 博美（池田 博），西田 治文（池田 博）

幹事会・委員会委員長：（）内は役職

出席 [14 名]：角野 康郎（会長），志賀 隆（庶務），池田 啓（会計），高野 温子（図書），矢野 興一（ホームページ），田村 実（編集委員長・英文誌編集），東 浩司（和文誌編集），朝川 毅守（自然史学会連合），岡崎 純子（講演会），西野 貴子（野外研修会），奥山 雄大（学術会議若手アカデミー），藤井 伸二（絶滅危惧植物専門第一委員会委員長），樋口 正信（絶滅危惧植物専門第二委員会委員長），伊藤 元己（植物データベース専門委員会委員長）

欠席 [6 名]：堤 千絵（ニュースレター），黒沢 高秀（植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合），高宮 正之（前・学会賞選考委員長），秋山 弘之（学会賞選考委員長），大橋 広好（国際命名規約邦訳委員会委員長），村上 哲明（ABS 問題対応委員会委員長）

1. 評議員会開催にあたり、角野会長から挨拶があった。
2. 庶務幹事により定足数が確認された。会長、評議員 9 名の出席、2 名の委任状出席があり、評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として池田博氏が、議事録署名人として田村実氏、角川洋子氏の 2 名が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1. 自然史学会連合関連報告 2014 年度活動報告および 2015 年度活動計画。
 - 4.2. 日本分類学会連合報告 2014 年度活動報告および 2015 年度活動計画。
 - 4.3. 植物分類学関連学会連絡会報告 2014 年度活動報告および 2015 年度活動計画。
 - 4.4. 学術会議若手アカデミー報告 2014 年度活動報告および 2015 年度活動計画。

4.5. 各種委員会に関する報告

- (1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『分類』の編集状況。
- (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過。
- (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学会論文賞の選考経過。
- (4) 植物データベース専門委員会 現状説明と活動報告。
- (5) 絶滅危惧植物専門第一委員会 現状説明と活動報告。
- (6) 絶滅危惧植物専門第二委員会 現状説明と活動報告。
- (7) 国際命名規約邦訳委員会 (2014 年度で解散) 活動報告。
- (8) ABS 問題対応委員会 現状説明と活動報告。

4.6. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況の説明。

4.7. 日本植物分類学会講演会報告 2014 年度実施報告および、2015 年度準備状況。

4.8. ニュースレターに関する報告 2014 年度実施報告および、2015 年度準備状況。

4.9. ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式 HP および ML の運用状況。

4.10. 会務報告 2014 年度の事業報告。

4.11. 会計報告 2014 年度の会員状況、会費納入状況。

4.12. その他

- (1) 野外研修会について 2014 年実施報告および、2015 年度準備状況。

5. 審議事項

5.1. 2014 年度事業報告 (案) について

志賀庶務幹事より 2014 年度事業報告 (案) が提案され、質疑の後、承認された。

5.2. 2014 年度決算報告 (案) について

池田会計幹事より 2014 年度決算報告 (案) が提案され、質疑の後、承認された。

5.3. 2015 年度事業計画 (案) について

志賀庶務幹事より 2015 年度事業計画 (案) が提案され、質疑の後、1 項目の修正が行われた後に承認された。

5.4. 2014 年度予算 (案) について

池田会計幹事から 2015 年度予算 (案) が提案され、質疑の後、1 項目の修正が行われた後に承認された。

5.5. 名誉会員の推薦について

角野会長より名誉会員の条件 (会則第 5 条) を満たしている会員 3 名の名誉会員への推薦がなされ、審議の結果、承認された。

5.6. 次期監事の選出について

五百川裕氏と西田佐知子氏を総会に推薦することが了承された。

5.7. 刊行物の在庫処理について

高野図書幹事より刊行物の在庫処理案が提案され、質疑の後、承認された。

6. その他

6.1. 第 15 回大会開催地について

角野会長より説明があり、中田政司氏 (富山県中央植物園) のお世話により、富山大学 (富山市) において 2016 年 3 月 5 日 (土) ~ 8 日 (火) の日程で開催されることが承認された。

6.2. 国際シンポジウム進捗状況

角野会長、池田国際シンポジウム準備委員会委員長より進行状況の説明があり、国際シンポジウム開催の準備を進めることが了承された。

6.3. 植物分類学の将来の発展と普及に関するワーキンググループ設置について

角野会長より上記ワーキンググループの設置が提案され、質疑の後、了承された。

6.4. 会員からの寄付について

志賀庶務幹事より説明があり、会員が学会に対して寄付行為を行いやすい環境を整えることが了承された。

6.5. 総会議事について

志賀庶務幹事より 2015 年度総会議事次第（案）説明され、3 項目の修正が行われた後に承認された。

2015 年度総会議事抄録

庶務幹事 志賀 隆

会場：福島大学 L 講義棟 L-4 教室

日時：2015 年 3 月 7 日（土）15 時 50 分～17 時

1. 総会に先立ち角野会長から挨拶があった。
2. 兼子伸吾大会準備委員長から挨拶があった。
3. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
4. 志賀庶務幹事より総会出席者が 78 名（後に 93 名）であることが報告された。
5. 牧雅之氏が総会議長に選出された。

6. 報告事項

6.1. 会務報告

志賀庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。

6.2. 会員数について

池田会計幹事より、通常会員数が減少傾向にはあるものの、名誉会員の増加による減少と会費滞納による除名によるものが主であることが説明された。

6.3. 各委員会からの報告

・編集委員会

田村編集委員長から編集状況の説明があった。会員の積極的な投稿に支えられ、『APG』、『分類』ともに予定通り定期的に刊行できている。しかし『APG』への投稿数は 2012 年度以降、減少傾向にあるので、これからも会員各位から積極的な研究成果の投稿をお願いしたい。また委員会では、『APG』の Web of Science への登録を目的にワーキンググループを立ち上げて活動しているとの報告があった。

・絶滅危惧植物専門第一委員会

藤井委員長から、2012 年のレッドリストに基づいたレッドデータブックが 2015 年 3 月末に出版されたとの報告があった。

・絶滅危惧植物専門第二委員会

樋口委員長から、絶滅危惧専門第一委員会と同様に、レッドリストに基づいたレッドデータブックが 2015 年 2 月に出版されたとの報告があった。

・植物データベース専門委員会

伊藤委員長から、グリーンリストの暫定版が近日中に公開予定であることが報告された。また、日本分類学会連合より依頼を受け情報収集を行ってきた、国内重要コレクションの調査結果が公開されたこと (http://www.ujssb.org/collection/collections_plants_150301.pdf)、国内の標本庫には国際登録されていないものも少なくないため、国内の登録機関が増えるように働きかけていくことが報告された。

・国際命名規約邦訳委員会

大橋委員長に代わり永益副委員長から、『国際藻類・菌類・植物命名規約（メルボルン規約）2012 日本語版』（2014 年 4 月 30 日に北隆館から出版）の販売状況について報告があった。また、本委員会は 2014 年度をもって解散したが、次回会議は 2017 年に予定されており、翻訳、編集作業を日本植物分類学会で引き受ける場合は、2017 年度に再び委員会を立ち上げるとの説明があった。

・ABS 問題対応委員会

村上委員長から、委員会の活動状況と ABS 問題について説明があった。名古屋議定書が 2014 年 10 月に発効したが、国内措置については関係省庁が協議をしている段階とのこと。現在、委員会では海

外標本庫からの標本借用など、植物分類学の研究を進めるうえで必要な手続きの整理を進めていること、ABS 問題に関連する情報が得られ次第、随時会員にお知らせするとの説明があった。

・学会賞選考委員会、論文賞選考委員会

総会前の記念講演会および表彰式において、審査結果の報告が行われた。

・大会発表賞選考委員会

総会後の懇親会において、審査結果の報告が行われた（詳細は NL 本号 4 ページ参照）。

7. 審議事項

7.1. 第一号議案 2014 年度事業報告、ならびに 2014 年度決算報告書の承認の件

前年度の事業報告と決算報告が志賀庶務幹事と池田会計幹事よりそれぞれ行われた。吹春監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告があった。

審議の結果、賛成 90 票、反対 0 票で出席者（90 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

7.2. 第二号議案 2014 年度事業計画、ならびに 2014 年予算案承認の件

志賀庶務幹事と池田会計幹事より上記二件について説明があった。会場からは、まず絶滅危惧植物専門第二委員会の名称について質問があり、角野会長より第 5 次レッドリスト改訂に向けて環境省の委員会の名称も現在検討中であり、来年正式に委員会が立ち上がってから分類学会の委員会の名称についても検討したいと回答がなされた。次に、繰越金が無くなったあとの予算計画について質問があり、池田会計幹事より現状のままだと 3, 4 年後には繰越金がなくなる見通しであること、現在執行部で会費値上げや支出削減の検討を進めていることが説明された。

これら質疑の後、賛成 90 票、反対 1 票で出席者（91 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

7.3. 第三号議案 次期監事の推薦について

役員等の選出についての細則第 6 条に基づき、評議員会から五百川裕（上越教育大学）、西田佐知子（名古屋大学）の両氏が推薦され、賛成 92 票、反対 1 票で、出席者（93 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

7.4. 第四号議案 名誉会員の推薦について

名誉会員の条件（会則第 5 条）を満たしている会員 3 名（福岡誠行氏、石澤進氏、橋本光政氏）の名誉会員への推薦がなされ、賛成 92 票、反対 1 票で、出席者（93 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

8. その他

8.1. 第 15 回大会開催地について

角野会長より次回第 15 回大会についての告知がなされ、中田政司大会会長の代理として兼本会員より挨拶があった。

8.2. 野外研修会について

西野担当委員より、島根県にて開催予定であることが説明された（詳細は NL 本号 12 ページ参照）。

8.3. 国際シンポジウムの準備状況について

角野会長から日中韓 3 か国合同シンポジウムのこれまでの経緯と現在の状況、国際シンポジウム準備委員会設立の経緯が説明された。また、池田国際シンポジウム準備委員長より、委員会の活動方針の説明があった。

8.4. 植物分類学の将来の発展と普及に関するワーキンググループ設置について

角野会長より、上記ワーキンググループを設置して、2015～2016 年度の 2 年間で各都道府県の植物研究会等の活動や全国の博物館等施設の植物担当者の現状を把握し、拠点施設の課題を整理することが説明された。

2015 年度事業計画および予算

庶務幹事 志賀 隆

(1) 集会等の開催

- ・ 学術集会, 講演会, 研修会
年次学術集会 (日本植物分類学会第 14 回大会: 3 月 5 ~ 8 日, 福島大学) を開催する。
2015 年度講演会を開催する (12 月 19 日, 大阪学院大学)。
2015 年度野外研修会を開催する (10 月 9 ~ 11 日, 隠岐諸島)。
- ・ 総会, 評議員会
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する (3 月 7 日)。
評議員会を開催する (3 月 5 日)。

(2) 出版物の刊行

- ・ 学会誌の発行
英文誌 『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』 第 66 巻 1 ~ 3 号 (計 3 冊) を発行する。
和文誌 『分類 [日本植物分類学会誌]』 第 15 巻 1 ~ 2 号 (計 2 冊) を発行する。
- ・ ニュースレター 『日本植物分類学会ニュースレター』 56 ~ 59 号 (計 4 冊) を発行する。

(3) 委員会活動

- 以下の委員会を組織し, 目的に沿って活動する。
- ・ 絶滅危惧植物専門第一委員会
 - ・ 絶滅危惧植物専門第二委員会
 - ・ 植物データベース専門委員会
 - ・ 学会賞選考委員会
 - ・ 大会発表賞選考委員会
 - ・ 論文賞選考委員会
 - ・ ABS 問題対応委員会
 - ・ 国際シンポジウム準備委員会

(4) 表彰

- ・ 日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会論文賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 国内学会連合等への参加・連携を行う: 日本学術会議, 自然史学会連合, 日本分類学会連合など。
- ・ The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携して, 国際シンポジウムの開催に向けて準備を進める。

(6) その他

- ・ 学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・ 植物分類学関連情報 (学術集会, 研究動向, 出版物, 公募) を収集し, ニュースレター, ホームページ等で提供する。
- ・ 学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。
- ・ 植物分類学研究マニュアルの作製と和文誌 『分類』 への原稿掲載を進める。
- ・ 植物分類学の将来の発展と普及に関するワーキンググループを設置する。

2015年度予算

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常(一般)	5,000	740	3,700,000	△ 25,000	注1
通常(学生/海外)	3,000	98	294,000	3,000	注1
団体会員	8,000	23	184,000	16,000	注1
バックナンバー販売			100,000	0	
命名規約(ウィーン規約)販売			0	△ 20,000	注2
利息			1,000	0	
雑収入			50,000	0	
合計			4,329,000	△ 26,000	

支出の部

大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費					
APG vol.66(1,2,3)	720,000	3	2,160,000	0	
分類vol.15(1,2)	750,000	2	1,500,000	0	
ニュースレターNo.56-59	55,000	4	220,000	0	
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料					
APG送料	80	3,000	240,000	△ 24,000	注3
和文誌送料	80	2,000	160,000	0	
NL送料	60	4,000	240,000	0	
会議費			50,000	0	
学会賞表彰経費			60,000	0	
自然史学会連合負担金			20,000	0	
分類学会連合負担金			10,000	0	
事務局管理費					
消耗品費			50,000	0	
交通費			100,000	0	
アルバイト賃金			470,000	0	
封筒等印刷費			250,000	250,000	注4
通信費(小包手数料を含む)			70,000	0	
手数料・その他			30,000	0	
自動振替集金代行基本料			3,240	90	注5
自動振替口座確認手数料	126	170	21,420	0	
自動振替新規手数料			0	0	
レンタルサーバー使用料			26,000	0	
国際シンポジウム積立金			300,000	0	
予備費			100,000	△ 50,000	注6
合計			6,300,660	176,090	

単年度収支	△ 1,971,660
前年度からの繰越金	6,872,072
次年度への繰越金	4,900,412

注1: 会員数見直しによる(新入会、名譽会員増、退会・除名・逝去など)

注2: メルボルン規約販売開始による。

注3: 発行部数見直しにより減額。

注4: 新執行部による運営開始に伴い新たな封筒の印刷が必要になるため。

注5: 消費税増税にともなう変更。

注6: 会長・評議員の選挙がないため減額。

特別会計 2015年度予算

収入	2015年度予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	2,555,641	△ 283,480	
国際シンポジウム積立金	300,000	0	注1
命名規約和訳販売	35,520	1,378,600	注2
レッドデータブック原稿執筆業務	2,094,150	2,094,150	注3
寄付	0	0	
利息	0	0	
合計	4,985,311	467,590	
支出			
命名規約和訳出版	0	△ 1,889,121	注4
国際シンポジウム準備金	1,200,000	300,000	注5
国際シンポジウム若手派遣	0	0	注6
レッドデータブックの寄贈	2,094,150	2,094,150	注3
次年度への繰越金	1,691,161	△ 37,439	
合計	4,985,311	1,569,578	

注1: 2012年度より一般会計から移管

注2: 出版社との契約に基づく

注3: 自然環境研究センターからの受託金。RDBの執筆協力者に冊子を配布するための経費

注4: 出版にともなう経費(会議費含む)

注5: 開催に係る準備金

注6: 今年度は海外での開催は無いため

お知らせ

2015 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

島根大学 林 蘇娟

隠岐諸島は、島根半島の北東約 60～80 km の海上に位置し、最大の島である島後と島前の 3 つの島（西ノ島・知夫里島・中ノ島）からなる海洋性の島群である。一昨年に世界のジオパークに認定された隠岐諸島は、大陸の縁辺であった時代（2500 万年前）、火山の島の時代（7 万年前）、島根半島の先端であった時代があり、今から約 1 万年前に現在のような離島となった。島の成り立ちと対馬暖流の影響を受ける地理的条件などから、南方系・北方系・高山性・低山性・大陸系の植物が共存し、他の地域では見ることのできない、本州とは異なった生物多様性を有している。

「隠岐諸島の植物」研修会の内容と日程予定

日程：2015 年 10 月 9～11 日

第 1 日目（10 月 9 日）：隠岐の島町（島後の西郷港、または隠岐空港）着。島根大学臨海実験所宿泊。隠岐の植物についてのセミナー（討論会）を行なう予定（19:30～20:30）。

第 2 日目（10 月 10 日）：臨海実験所から出発（8:30、レンタカーを利用）、島内最高峰の大満寺山（標高は 608 m）へ、登山口から 1～2 時間登山しながら、植物を観察する。天候が良ければ山頂から隠岐諸島の島々を一望できる。登山しない方は登山口周辺の 800 年天然乳杉を見学し、林下のオシダの群集、多種のシダ植物の観察、または、鷲ヶ峰（屏風岩、トカゲ岩）へのハイキング（歩道）でクロベ林と天然杉林、南方・北方系の植生を観ることが出来る。午後は名水の壇鏡滝へ移動、滝と溪流周辺の植生を観察する。

第 3 日目（10 月 11 日）：臨海実験所から早朝出発、西郷港（8:30）からフェリーで西ノ島（島前）へ、別府港到着（10:05）、レンタカーを利用して、島前最高峰の焼火山（タクヒ山、標高 451 m）へ移動する。焼火神社（山頂）まで登山（往復 3 時間）、アカガシとスダジイの混合林、ヤブツバキ、オキノアザミなどの植物観察ができ、タクヒデンダが確認できるかもしれない。次に由良姫神社（ハチジョウベニシダ）、摩天涯、国賀海岸へ、ジオパークなどの絶景、自然景観を見学する。午後本土行きのフェリーは、別府港発（15:45）～七類港着（17:55）、それぞれ米子駅（米子空港経由）または松江駅行きの接続バスがある。または別府港発（17:15）の西郷港行きのフェリーで島後に戻り、臨海実験所で延泊も可能である。*3 日目に参加しない方は直接隠岐空港または西郷港から高速船、フェリーを利用して帰路。

申し込み方法：以下の申し込み先まで、氏名、性別、連絡先住所、電話番号、メールアドレスの記入をお願いします。

申込期限：8 月 31 日までを目処として、申し込み順に 30 名程度で締め切らせていただく予定です。宿泊施設の定員の関係ですのでご了承ください。

交通：隠岐の島（島後）までの交通手段は空路（隠岐空港まで）、または海路（七類港あるいは境港から西郷港までのフェリーまたは高速船）を利用できます。アクセスは、「隠岐臨海実験所」または「隠岐ジオパーク」の HP を参照。

参加費：15,000 円程度（宿泊、食事代、レンタカーなどの交通費）に懇親会費が加わります（島後までの往復交通費は別途各自でご負担ください）。経費は当日に集金させていただきます。

*宿泊代は約 1,000 円 / 1 人、弁当代、レンタカー料金（5 人乗り乗用車 10,000～15,000 円 / 1 日、西郷港～臨海実験所へ約 7 km のタクシー代 2,000 円程度を目処に、参加費用を算出しています（人数によりレンタカー料金など変動がありますので、概算であることをご了承ください）。フェリー料金と時刻表は下記のサイトを参照してください。

平成 27 年 隠岐汽船運航時刻表：http://www.oki-kisen.co.jp/category_1st.php?sid=53

申し込み先：

島根大学生物資源科学部 林 蘇娟 (Lin Su-Juan)

電子メールアドレス：sjlin@life.shimane-u.ac.jp

電話とファックス：0852-32-6444

(できるだけメールやファックスでご連絡いただきますようお願い致します)

日本植物分類学会第 15 回大会のお知らせ

第 15 回大会会長 中田 政司

日本植物分類学会第 15 回大会を、2016 年 3 月 5 日 (土) ～ 8 日 (火) に、富山大学において開催いたします。大会および参加申し込みの詳細は、大会ホームページおよび第 59 号のニュースレターでお知らせいたします。多数のご参加をお待ちいたします。

【会場】 富山大学 (富山市五福 3190)

【日程】 2016 年 3 月 5 日 (土)：各種委員会、評議員会 (理学部会議室)

3 月 6 日 (日)：研究発表、公開講演会

3 月 7 日 (月)：研究発表、総会、受賞講演、懇親会など

3 月 8 日 (火)：研究発表

【ホームページ】 現在作成中、アクセス可能になり次第、分類学会ホームページ等にてご連絡いたします。

【問い合わせ先】 日本植物分類学会第 15 回大会 (富山大会) 準備委員会

〒939-2713 富山市婦中町上轡田 42 富山県中央植物園

中田政司 (大会会長)

TEL: 076-466-4187 ; FAX: 076-465-5923 ; E-mail: nakata@bgtyrn.org

バックナンバー 9 割引販売の期間延長について

図書幹事 高野 温子

昨年から日本植物分類学会の英文誌『APG』、和文誌『分類』、旧植物分類地理学会の『植物分類、地理』のバックナンバーを通常価格の 9 割引で販売いたしておりましたが、好評につき 2016 年 3 月 31 日まで割引販売を延長いたします。CiNii で PDF 公開もされていますが、冊子体を手元に欲しい方はまとめ買いのチャンスです。割引対象冊子は以下の通りです。

英文誌『APG』52 巻 1 号 (2001) ～ 63 巻 1 号 (2012) 200 円 (通常 2000 円)

和文誌『分類』1 巻 1/2 号 (2001) ～ 13 巻 1 号 (2013) 100 円 (通常 1000 円)

『植物分類、地理』14 巻 1 号 (1949) ～ 51 巻 2 号 (2001)

ただし送料は各自ご負担願います。お問い合わせは図書幹事 高野温子まで。

公的機関へのバックナンバー寄贈について

図書幹事 高野 温子

日本植物分類学会の英文誌『APG』, 和文誌『分類』, 旧植物分類地理学会の『植物分類, 地理』のバックナンバーを, 大学や博物館, 図書館等, 希望する公的機関に無償で寄贈いたします(ただし送料はご負担願います)。『植物分類, 地理』の若い号の一部に黄変等見られますが, 予めご了承ください。『植物分類, 地理』14巻からの全号が揃ったセットは, 9セット程出来る見込みです。申込順とさせていただきます。希望する機関の担当者は, 図書幹事 高野温子までご連絡ください。

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館内
日本植物分類学会 図書幹事 高野温子 TEL: 079-559-2001, FAX: 079-559-2007
E-mail: tosho@e-jsps.com

新着交換図書紹介 (2015年2月～2015年4月10日)

図書幹事 高野温子

Gardenwise vol. 44
Gardens Bulletin Singapore vol. 66 (2)
Thai Forest Bulletin vol. 42
Webbia vol. 69 (2)
Bulletin de la Societe d'Historie Naturelle vol. 100
Journal of Tropical and Subtropical Botany vol. 23 (1)
Reinwardtia vol. 14 (1)
岡山大学資源生物科学研究所報告 vol. 22
神奈川県立博物館研究報告 vol. 44
神奈川自然誌資料 vol. 36

学会員の方は, 兵庫県立人と自然の博物館(兵庫県三田市弥生が丘6丁目 アクセス方法は <http://www.hitohaku.jp> をご覧ください)にて閲覧可能です。閲覧希望の方は, 図書幹事にお問い合わせください。文献複写依頼はお受けできませんので, 予めご了承ください。

植物研究会・同好会紹介

「ラン懇話会」

齊藤 亀三 (ラン懇話会会長)

「ラン懇話会」は, 1980年に国際基督教大学の篠遠喜人先生の呼びかけで, ランに関係するあらゆる分野の方々の情報交換組織として発足しました。現在では, 会員数も120名余の会です。特徴は, ランの愛好家, 業者, 研究者などさまざま立場の方の集まりで, また野生ラン, いわゆる洋ラン, 東洋ランを分け隔てることなく, ラン科全体を対象としていることです。

年2回開催される大会は, その都度テーマを設け, 愛好家, 業者, 研究者など多彩な講師によって構成され, これまでに70回の大会を開催し, 演者の数も延280人以上となりました。

現在, 全国各地のラン愛好家団体に加入している方は数万人と言われており, 未加入者の数まで含めると10万人前後と思われるが, 活動内容は, 品評会や品種改良, 栽培方法等が中心となっております。一方, 研究者の数は決して多くはありませんが, 所属学会が植物分類学, 菌類学, 花き園芸関係など極めて多岐にわたっており, それまでは一同に会することが殆どありませんでした。

愛好家にとっては最先端の情報を得られ、研究者にとっては、他分野の研究者との意見交換をはじめ、業者や愛好家の発言から研究のヒントを、あるいは研究素材に関する情報や、提供を受けることが可能となります。業者にとっては研究者より最先端の栽培技術に関する情報を得ることが可能となり、愛好家からは市場のニーズを知ることが出来る貴重な場となっています。発足当初から日本国内はもとより世界各地のランの自生地やフロラに関する講演も行われてきました。特に国内に関しては、各地のフロラ調査や保護・保全を行っている活動家をお願いしてきました。ラン科は絶滅危惧種の比率が約 62% と、日本の植物の科では最も高い植物です。特に国内にあっては、様々な開発行為による自生地の減少に加え、昔からエビネ、セッコク、シュンラン、カンランなどが栽培目的で採集されてきたため、急速にラン科植物の個体数が、激減しているのが現状です。

当会では、野生ラン保護の重要性と保護活動は、必ずしも高度な専門知識が無くても可能であることを広く衆知することを目的とし、IUCN ラン専門家部会日本支部と共催で、「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムを実施しています。2008 年に新宿御苑にて第 1 回を行い、市民を対象とする国内の野生ランの保護・保全の実践活動の発表を行ってきました。これまで、市民団体による高速道路予定地のヒトツボクロの移植、ホテイアツモリソウの保護・保全・復元活動、高校生によるクマガイソウの無菌播種実験やダイサギソウの人工播種などの活動報告を行ってきました。毎回 100 人前後の参加者がありますが、半数以上が一般市民で、野生ラン保護に対する関心の高さがうかがわれます。2013 年からは、会場を東京都立神代植物公園植物多様性センターに移し、自生地播種の実習など、より実践的なシンポジウムを行っております。この活動を通し、各地でランの保護・保全活動を実践されている方々のネットワークの構築を目指しております。

分野を問わず、ラン科植物に興味をお持ちの方々の入会を歓迎いたします。過去の講演タイトル等の詳細は、「ラン懇話会」ホームページをご覧ください。http://www.orchid.or.jp/orchid/society/ran_konwakai/

会報：Orchid Sciences は年 1 回発行

年会費：

普通会員：3,000 円

準会員（学生及び会員家族）：1,000 円

賛助会員（法人会員）：10,000 円

入会方法：

HP より「PDF」入会申込票に必要事項をご記入の上、電子メール、FAX または郵送にて事務所宛にお送りください。

ラン懇話会事務所：

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 2-4-28

(財) 進化生物学研究所内 吉田彰

FAX：03-3452-2554, e-mail：YQJ02507@nifty.ne.jp

